

市場価格

ドル建て ドル/TOZ

Platinum	Price	Date
Open	1030.00	2022/11/14
High	1039.00	2022/11/15
Low	976.31	2022/11/18
Close	981.19	2022/11/18

円建て 円/グラム

Platinum	Price	Date
Open	4616.00	2022/11/14
High	4645.00	2022/11/14
Low	4403.00	2022/11/18
Close	4429.00	2022/11/18

ドル建て ドル/TOZ

Palladium	Price	Date
Open	2032.00	2022/11/14
High	2115.00	2022/11/15
Low	1934.00	2022/11/18
Close	1941.10	2022/11/18

円建て 円/グラム

Palladium	Price	Date
Open	9123.00	2022/11/14
High	9487.00	2022/11/16
Low	8734.00	2022/11/18
Close	8762.00	2022/11/18



ニュースエクスプレス

プラチナ

ロンドン金属取引所、ロシア産メタルを禁止せず

ロンドン金属取引所(LME) は11月18日、ロシア産メタルについて、同市場機能の大部分が2023年も引き続きロシア産を受け入れる体制であることを理由に、取引及び保管を禁止しない決定を発表した。

同市場は世界最古で最大の産業用メタルの取引市場であるが、ロシア産メタルについて市場関係者の意見を聞くために、10月書面による調査を開始していた。

「ロンドン金属取引所としては現時点で新たなロシア産メタルを認可しない、あるいは取引所保管庫で扱う量を限定する措置をとることは提案しない。」としている。

「ロシア産メタルが世界の市場で流通することに関しては倫理上の問題があることは明らかだが、ロンドン金属取引所としては、広義の取引市場に道徳的な判断を持ち込むことは避けるべきであると信じている。」

同取引所は引き続き自社保管庫へのロシア産メタルの動きを監視するとしており、2023年1月からは透明性を高めるためにロシア産メタルが保管庫に占める割合を定期的に報告するとしている。

パラジウム

2023年は発展途上国の市場が自動車触媒需要を牽引か

インドのホリデーシーズンは貴金属需要だけでなく自動車販売にも追い風となっている。10月の普通乗用車販売はコロナ禍に打撃を受けた2021年から41%増、コロナ禍以前と比べても18%増えて、32万9000台となった。中国の普通乗用車販売もまた、10月も引き続き堅調で、前年比7%増の250万台となった。前月9月との比較では26%のマイナスとなったが、4%増と予測されている米国の状況を大きく上回っている。米国と欧州の不景気のため2023年の自動車販売の展望は楽観できなく、パラジウムの自動車触媒需要は減少するとみられる。

インドのパラジウム需要は、米国や欧州と比べると10.6トン(2022年推測)と少ないが、伸び率の予測は8%。その背景には今後自動車販売が増える予測であること、そして「Euro 6」排ガス規制と同等の水準となる「Bharat 6」排ガス規制の最終段階の導入で、自動車触媒に使われるパラジウムの量が増えるとみられることがあげられる。

<https://www.hellenicshippingnews.com/lme-will-not-ban-russian-metal-from-its-system/>

https://www.heraeus.com/media/media/hpm/doc_hpm/precious_metal_update/en_6/Appraisal_20221114.pdf#msdyntrid=_jPnSuYd6JP9hDtLPafnewuzeqknd8BVePb-OaKcgGk

Translated by JBMA Osawa KAZUKO

WPIC直近の活動

➤ インドはゴールドを主に成熟した宝飾品市場であるが、2000年からプラチナの宣伝に注力した。その結果プラチナ宝飾品の市場シェアは15%に成長した。プラチナ宝飾品市場を築くため、若い世代が好む価値・モダンでミニマリズムなデザインの提案・個性の表現を好む消費者を焦点にブランド戦略を打ち出した。世界経済が不安定の中、インド経済は依然と手堅く、プラチナの販売も今後伸びると予測。詳しくはプラチナ豆知識「インドのプラチナ宝飾品」(2022年11月16日)をご覧ください。

<https://platinuminvestment.com/about/60-seconds-in-platinum>

免責事項: 本資料は情報提供に過ぎず、WPICの投資提案を意図するものではなく、また、そのように解釈されるべきでもありません。



(@wpicjapan)